

風景づくりの足あと

世田谷区では早期から、区民が自分たちの街や風景を考え、愛着を持ってもらえるよう、風景づくりに関する普及啓発の取組みを積極的に進めてきました。平成11年に施行した「風景づくり条例」では、区民、事業者、区のそれぞれの風景づくりの役割を示すとともに、区民の主体的な風景づくりを推進する仕組みとして「地域風景資産の選定」や「界わい宣言の登録」を位置づけ、区民、事業者、区が協働で風景づくりを推進する意義や仕組みを定めました。平成19年には「風景づくり計画」を策定し、地域の個性や魅力を高める風景づくりを推進するための事業・施策に取り組んできました。

ここでは、そのような区民、事業者、区の取組みの概要を、「風景づくりの足あと」としてご紹介します。各取組みの詳細は、「世田谷区風景づくり計画改定素案」をご覧ください。

船橋小径

【風景づくりアドバイザーの活用】

【地域風景資産】

船橋の住宅街に、土のまま残された小径があります。小径は木々や季節の草花が青々と茂り、鳥や昆虫などが生息し、地域住民の方々により木々や草花の管理が行われています。

令和2年(2020年)に隣接する高校の建て替え工事に伴い風景づくりアドバイザー制度を活用し、小径の樹木への影響の調査や、小径内の日照条件の変化などを考慮した樹木の選定などについてアドバイスを頂きました。



うめとひあ

【風景づくりに配慮した公共施設】

「区立保健医療福祉総合プラザ（うめとひあ）」は梅ヶ丘病院の跡地に保健医療福祉の拠点として整備され、令和2年(2020年)に開設されました。整備にあたっては、「周辺地域の緑との連続性に考慮したみどり豊かな環境の創出」「周辺地域に配慮した施設整備と景観形成」「オープンスペースや通り抜けの確保、安全な歩行空間の確保等による地域の防災性・安全性の向上」などの風景づくりの視点で、道路、公園、公共建築物、民間建築物の一一体性に配慮されたデザイン・意匠となるよう計画・整備されました。



世田谷代田駅前広場

【風景づくりに配慮した公共施設】

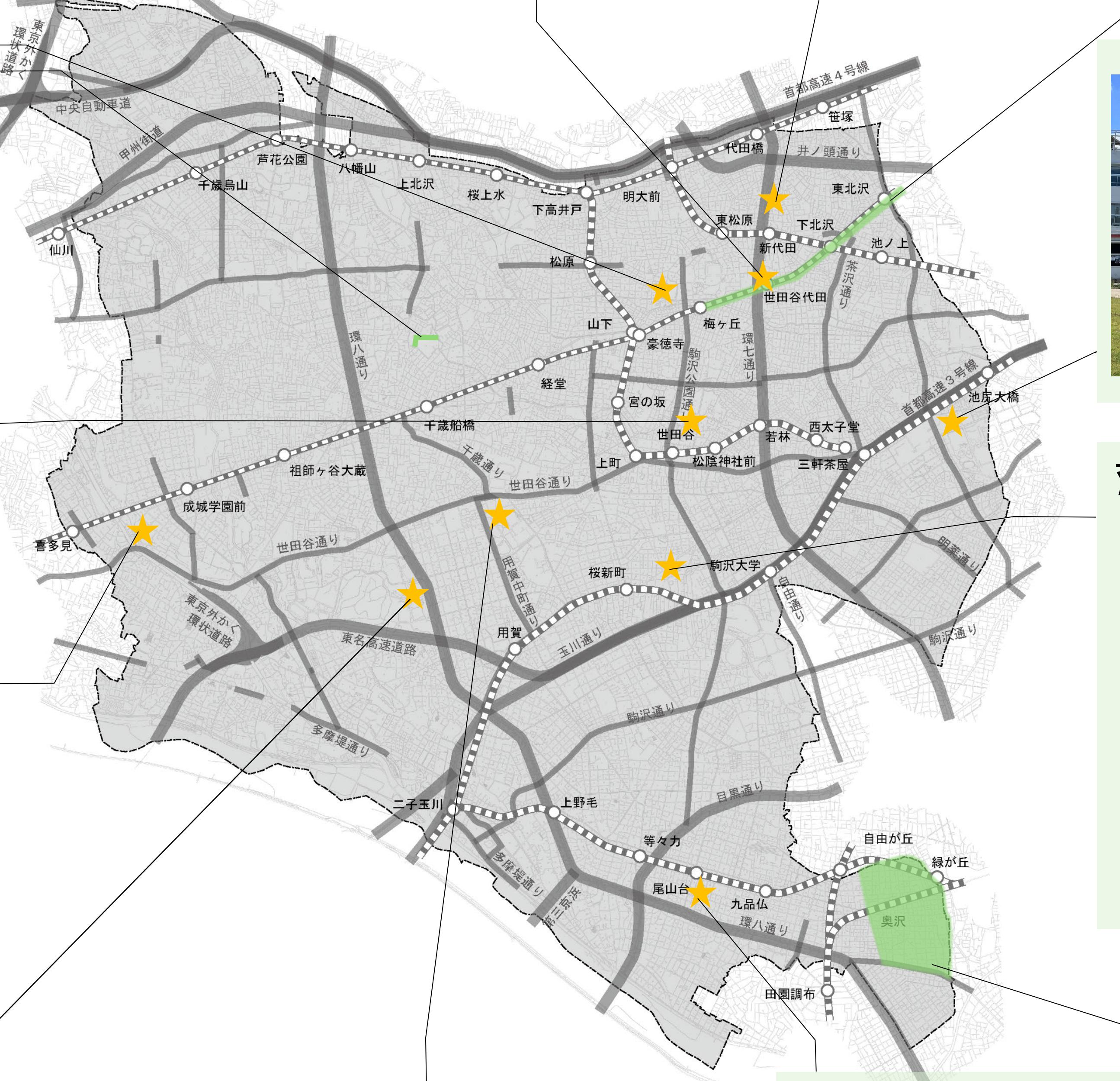
平成12年(2000年)に地域にお住いの方々と検討が始まり、平成22年(2010年)に駅前広場整備計画を策定しました。整備にあたっては、利用者の安全や機能面の確保だけでなく、地域の個性を活かしながら、秩序のある連續した空間づくりに役立てるためのデザインの指針として策定された「北沢デザインガイド」に基づき、駅前広場内の施設と調和したデザインにすることで、街並みに一体感が生まれるよう配慮しています。



まちりやまテラス

【旧校舎を活用した多様な主体による活動から生まれる風景】

旧守山小学校時代に培われた地域との関わりや学校の思いを引き継ぎ、誰でも気軽に利用することができる「交流ロビー」や、運動などに使用できる「広場」や「多目的室」、その他地域の方たちによる「部活動」など、様々な活動が行われています。

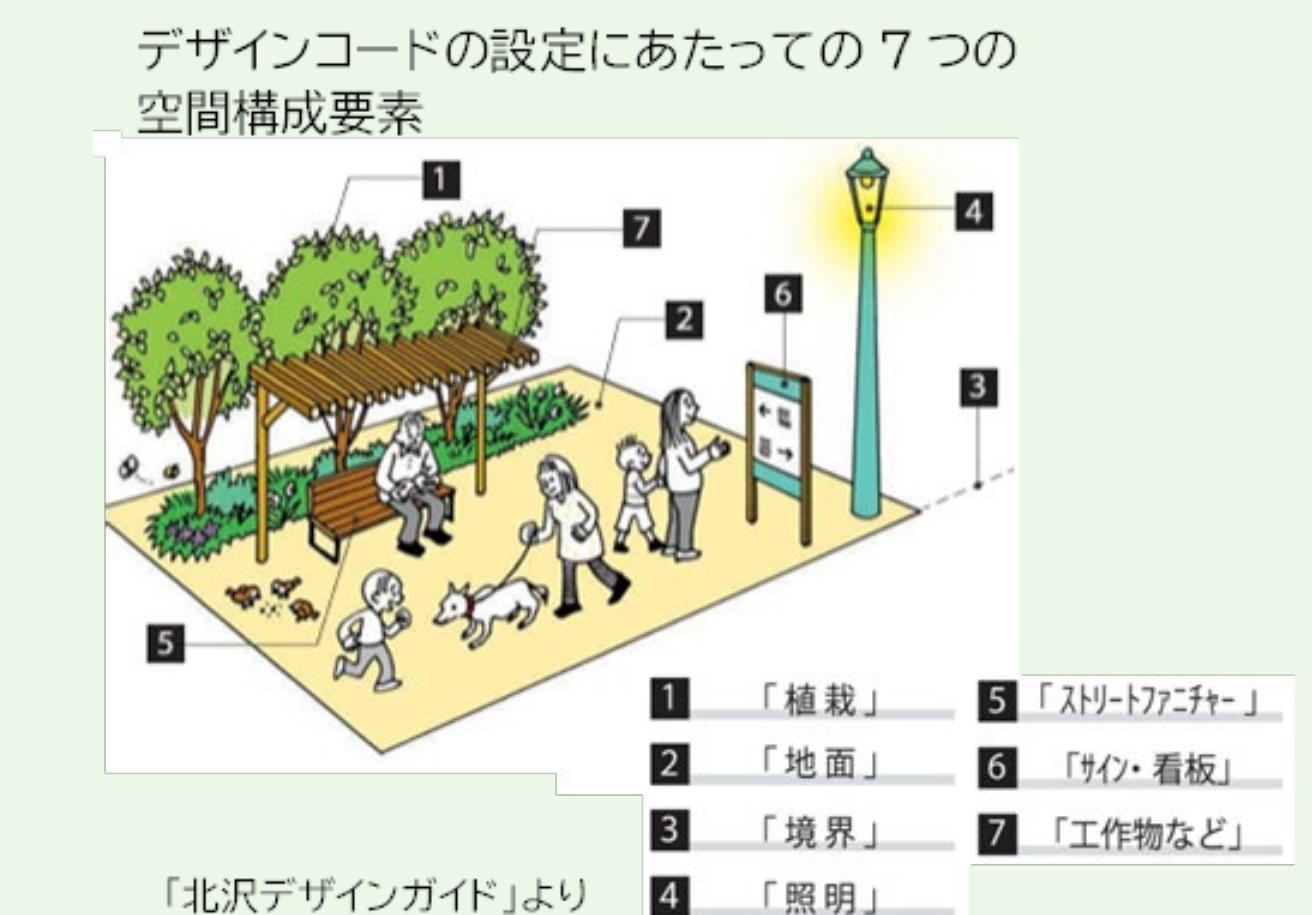


小田急線の上部空間

【広域的かつ長期的な開発における区民、事業者、区の協働による取組み】

世田谷区では、平成27年(2015年)に、小田急線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)の上部空間の通路、緑地・広場等の公共施設について、地域の個性を活かしながら、秩序のある連続した空間づくりに役立てるためのデザインの指針「北沢デザインガイド」を策定しました。

「上部利用デザインワークショップ」により区民参加でつくった3つの「デザインコンセプト」に基づき、区施設の整備におけるデザインの方針や具体的な方策をまとめ、「デザインコード」として示しています。



デザインコードを基にしたデザインの例

- ②「地面」
連続性を感じる素材・色
①通路については、調和のとれた素材と色彩とする。
②敷地境界にこだわらず、隣接する舗装との一体感を高める。
③基盤となる舗装材は、多様なプランに馴染み連続性をとりやすい素材とする。

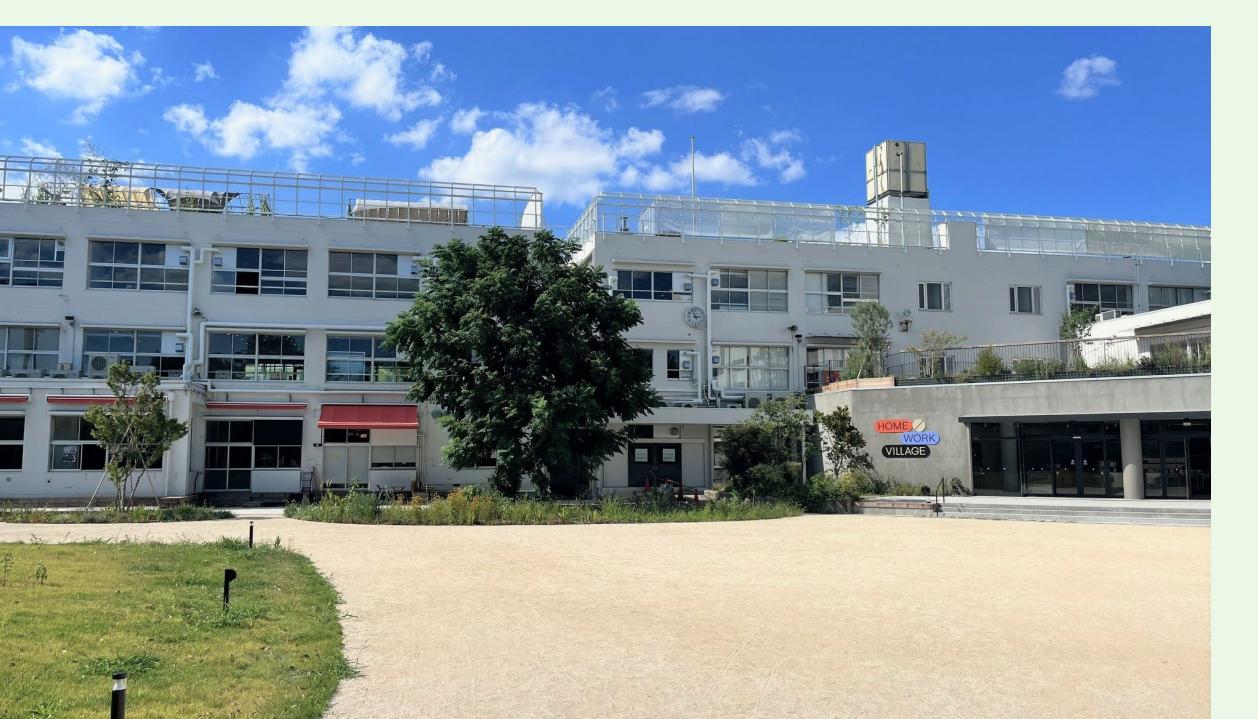


HOME/WORK VILLAGE

(ホーム/ワーク ヴィレッジ)

【旧校舎を活用した多様な主体による活動から生まれる風景】

旧池尻中学校の建物を活用し、世田谷区による産業活性拠点創出事業の一環として開設された施設です。「暮らし(HOME)」と「仕事(WORK)」を見つめ直し、私たちの社会に残された「宿題(HOMEWORK)」を解決することを目的とし、オフィスやカフェ、飲食、ショッピング、教育・文化・スポーツ施設などが集う複合施設として2025年に誕生しました。



双子の給水塔の聳え立つ風景 【地域風景資産】

平成11年(1999年)に、区民が主体となり大切にしたい身近な風景を守り、育て、つくる風景づくりの手がかりとなることを目的とした「地域風景資産」制度が始まりました。「地域風景資産」の選定は、風景づくり活動を生み出すための仕組みであり、地域で大切にしたい風景のために活動する人の輪を広げ、風景を育んでいくことを目指しています。そのため、資産を選定する過程においても、あらゆる場面で多くの区民が関わってきたことが特徴です。

活動団体：駒沢給水塔風景資産保存会

大正13年(1924年)に多摩川で取水した水を当時の澁谷町(現・渋谷区)へ送水するために、駒沢の給水所に2つの給水塔(駒沢給水塔)が造されました。

活動団体「駒沢給水塔風景資産保存会」により、会誌の発行や様々なイベントでのパネル展示、近隣小学校などへの各種見学会の実施など、駒沢給水塔を多くの人に知ってもらうための活動が行われています。



奥沢1～3丁目等界わい形成地区 【界わい形成地区】

奥沢1～3丁目等地区は、みどり豊かな住宅地や歴史を感じさせる街並みなど地域固有の風景を残し、また、住民団体の地域活動も活発に行われている地域です。

平成29年(2017年)度より、魅力的な風景を地域住民の手で守り育てて次世代を担う子どもたちへ引き継ぐため、住民と区が協働して「奥沢1～3丁目等界わい形成地区～みどりと人がつなぐおくわの風景づくり～」の指定に向けた検討(令和4年指定)や奥沢の風景的魅力を共有するためのイベント「風景祭」を実施しています。



世田谷清掃工場【煙突色彩デザイン公募】

世田谷区では、昭和63年(1988年)に、世田谷清掃工場の煙突の建て替えに伴い、煙突の色彩デザインを一般公募しました。

104点の応募作品が寄せられ、審査委員会による審査により、砧公園や世田谷美術館などの周囲の環境と調和した色彩の煙突が生まれました。



bajico

【地域活動から生まれる風景】

「bajico」とは、「馬事公苑界隈いこommunityデザインプロジェクト」の愛称です。地域に関心を持つ住民、区内の大学、企業、NPO、近隣店舗などのメンバーと世田谷区都市デザイン課との協働により、現在は馬事公苑前の「けやき広場」にて年に3～4回のイベントを開催しています。



おやまちプロジェクト

【地域活動から生まれる風景】

尾山台周辺地域で、商店街・小中学校・大学・地域住民など、多様な人々が参加し、日常の中交際や学び、チャレンジの場を生み出している取組みです。「つながるホコトプロジェクト」や「おやまちカレー食堂」など、各々が持ち味を發揮しながら、自分たちの手でまちでの暮らしをより豊かにする活動を行っています。

